

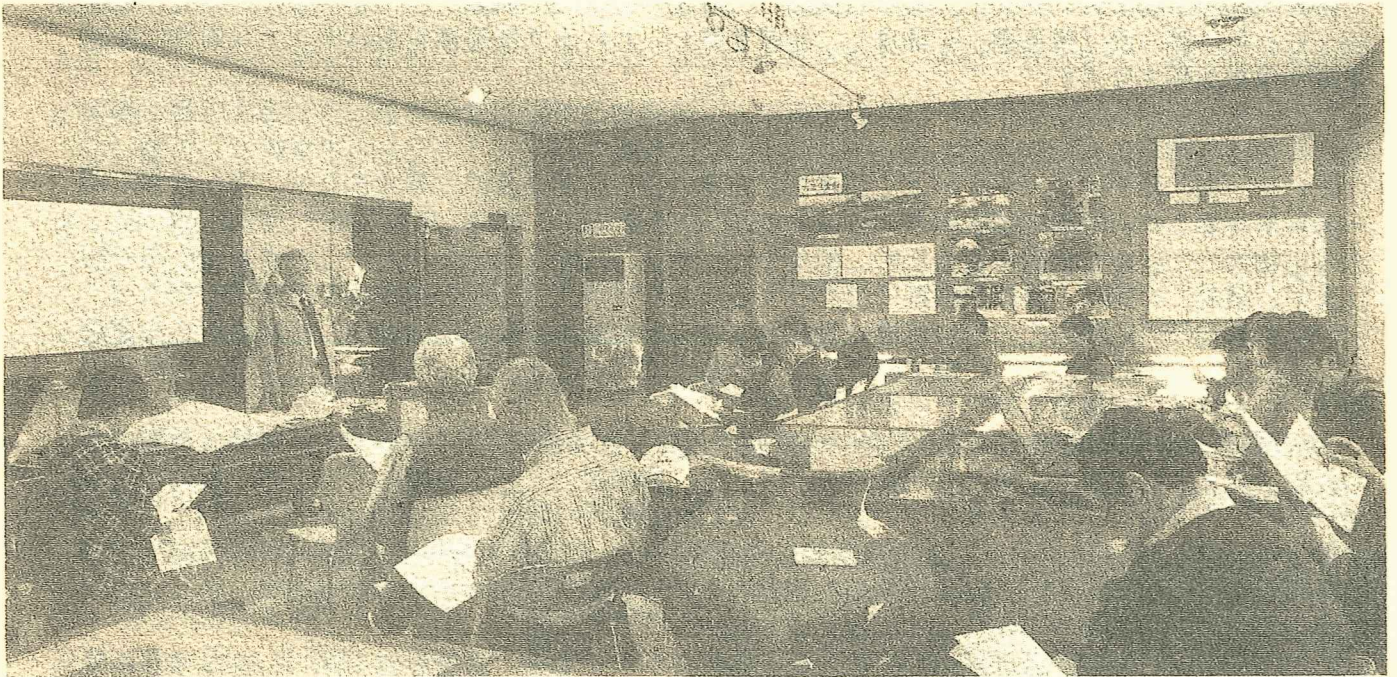
れき じん

となん歴史民だより vol.39

Morioka tonan history and folklore museum

平成26年6月30日発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 Tel/Fax 019-638-7228



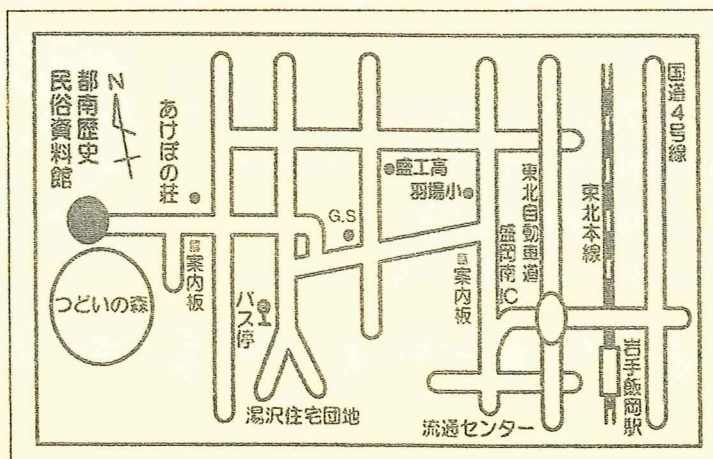
吉田義昭氏講演「花巻人形の文化—花巻と盛岡をつなぐ土人形—」[5月24日(土)]

是非ご来館ください。お待ちしております。

— もくじ —

- 特別展に見る盛岡ゆかりの先人(その2)
- 社会科見学のご案内
- 合同企画展「花巻人形展—鎌田コレクションを中心に」について
- 当館企画展のご案内
- 資料は語る㊤
- 盛岡市所在
- 指定・登録文化財紹介㊤
- となんの昔ばなし㊤

MAP☆ACCESS



○利用案内

開館時間

午前9時から
午後4時まで

入館料

無料

休館日

月曜日
(休日に当たるときは、直近の平日)、
年末年始

特別展に見る盛岡ゆかりの先人（その2）

盛岡市都南歴史民俗資料館 館長 玉川英喜

今回は先人シリーズその2として、昨年「『もりおか』露地裏の珍品・稀書展」で展示した「①鈴木彦次郎直筆原稿」と今年9月13日から11月30日までの特別展で出展予定の「②宮澤賢治の詩冬二篇掲載誌」を取り上げます。

資料はいずれも盛岡市在住澤井敬一氏所蔵のものです。

①の資料は、鈴木彦次郎の親友川端康成3回忌の昭和49年、江刺岩谷堂に「川端康成ゆかりの地」という文学碑が建てられますが、その際に鈴木が建立の趣旨をしたためた一文です。この文章は、文学碑の裏面に刻まれています。鈴木と川端は、旧制一高の寮で同室でしたし、また今東光、横光利一らと共に第六次「新思潮」を継承し、新感覚派といわれる文芸思潮を生み出し、文学界に新感覚派時代を出現させます。

川端と岩谷堂との結びつきは、川端の初恋の人、伊藤初代が岩谷堂出身ということによるものです。初代は当時著名人や東大生がよく出入りしていた本郷のカフェ「エラン」で女給として働いていました。初代はやはりエランをよく訪れる谷崎潤一郎の仕草を真似てみせるなど、ひょうきんな一面もありました。川端は大正10年、22歳の時、心を寄せていた初代に求婚します。初代も承諾し、さらに初代の父忠吉の承諾を得るため、同年10月16日、川端、鈴木ら4名でこの岩谷堂の地を訪れます。結局この恋は、突然の破談で終わってしまいますが、「川端の全作品を味読するならば、いかに少女初代の心象がその底に色濃く投影しているかを認めずにいられまい」と鈴木がこの資料の一文に記しているように、川端文学の数々の作品に初代の心象が映し出されています。「伊豆の踊子」のヒロインの原型も初代といわれています。

②の資料は、昭和2年12月21日発行の盛岡中学校交友会雑誌1927年集です。賢治は母校のこの会誌に会友として詩冬二篇「銀河鉄道の一ヶ月」と「奏鳴四一九」を寄稿しています。賢治は1914年（大正3）3月盛岡中学を卒業していますが、この会誌発行の時には31歳になっています。この頃の賢治は、前年の1926年3月に花巻農学校を依願退職し、その年夏羅須地人協会を設立して、農民指導にあたっていました。この会誌はその翌年の発行ですので、賢治が農学校退職後、新しい活動に奔走していた頃の資料ということになります。

この会誌には、他に新渡戸稲造の講演記録が掲載されています。新渡戸は1927年10月4日に盛岡中学で講演を行っており、ここに掲載されているのはその時のものです。実は新渡戸の盛岡中学での講演はこの時が初めてではなく、1909年（明治42）6月25日にも行っています。この時賢治は盛岡中学1年生でしたので、この新渡戸の講演は聞いていたはずですが。

他にもこの資料には、細越夏村や鈴木彦次郎がやはり会友としてそれぞれ散文を寄稿しています。一つの資料をきっかけに、視点を少し変えると、盛岡ゆかりの先人が様々な場面で交錯し、繋がりがあつてことを窺い知ることができます。当館の特別展では、通常なかなか見ることのできない個人所蔵資料なども展示しますので、それらの資料から様々な興味・関心を広げていただければ幸いです。



社会科見学受入のご案内

当館では例年、小学校・中学校の社会科見学を受入れております。今年度も、是非当館を御利用ください！また、学習教材として資料貸出も行います。お気軽に御相談ください！

※連等先 当館 TEL 019-638-7228



合同企画展

「花巻人形展 ―鎌田コレクションを中心に―」について

当館では、平成26年4月26日(土)～6月15日(日)の期間、合同企画展「花巻人形展―鎌田コレクションを中心に―」を開催しました。本展では、当館所蔵と市内在住の収集家である鎌田隆氏所有の花巻人形を展示しました。花巻人形は、1000～2000種といわれる種類の豊富さから信仰や風俗などに分けて分類(参考：花巻市博物館)しました。人形の中には、年号が残っているものや購入者、あるいは所有者が底紙に文字を残しているものもあります。多用される赤色と華やかな花柄が特徴の花巻人形は、来館者にも好評でした。

都南地域では、かつて花巻から行商で売られた花巻人形を雛祭りの時期に並べる風習があり、花巻人形に親しんでいました。しかし、現在ではその風習が残る家はほとんど見られなくなっていますが、本展に際して行った聞き取り調査により、現在でも雛祭りの時期に餅やきりせんしょを供えて花巻人形を飾っている家が都南地域に残っていることが分かりました。

また、本展では当館にとって初の試みである講演会も開催しました。5月24日(土)には、「花巻人形の文化～花巻と盛岡をつなぐ土人形～」と題して、盛岡市文化財保護審議委員の吉田義昭氏による講演を行いました。6月7日(土)には、「花巻人形」と題して、花巻市博物館学芸員の小原伸博氏による講演を行いました。当日、当館学芸調査員による企画展概要説明も行い、両氏の講演は参加者から好評をいただき、花巻人形への関心と知識を深める機会となりました。この場を借りて、両氏に心より御礼申し上げます。



【花巻市博物館学芸員小原氏による講演の様子】

次回企画展のご案内

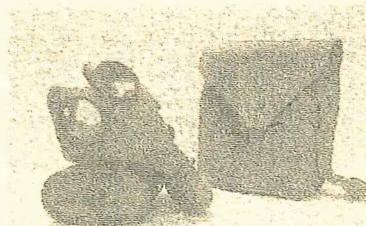
●企画展「戦時中の盛岡・都南」

【開催期間】

平成26年7月5日(土)～8月31日(日)

【内容】

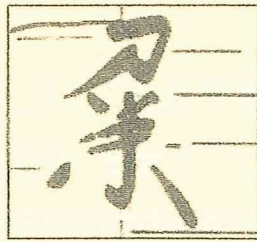
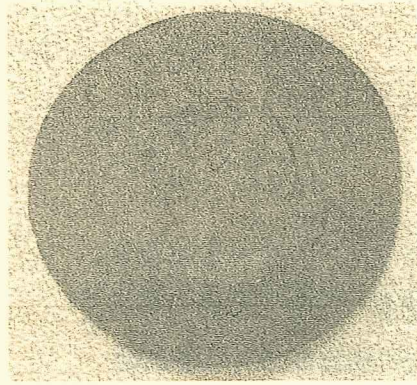
明治から昭和における戦時中の資料を展示



防毒マスク(吉田義昭氏蔵)



見前学校築造契約書
(校舍図面部)(当館蔵)



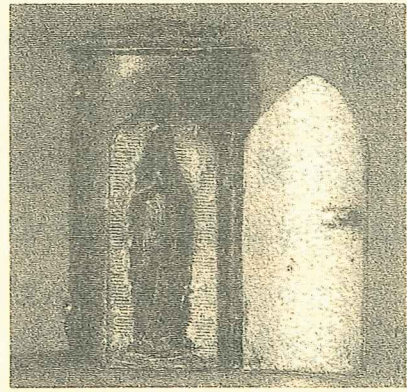
(図1)

【百目木遺跡出土 墨書土器】

盛岡市三本柳に位置する百目木遺跡は、昭和53(1978)年旧都南村教育委員会により発掘調査が行われた奈良・平安時代の遺跡です。80棟の住居跡が見つかり、土師器や須恵器、勾玉、土製紡錘車などが多数出土しています。

写真の墨書土器は赤焼き高さ5.1cmの杯で、南東に位置する住居跡から出土しています。墨書土器とは、土器に文字や記号の書き込みがあるもので、この土器には、底部には「最」という字があり、側面には図1のような文字の書き込みがあります。百目木遺跡からは、この他にも墨書土器が出土しており、これらは当館の常設展で展示しています。是非実物を見に来て下さい。

参考：「百目木遺跡発掘調査報告書」(1979)



マリア観音像(厨子付) 1体

観音像に似せて造られた青銅鑄造のマリア像で、マリア観音とは長崎のキリシタンが観音像を聖母マリアに見立て崇拝していたものの総称です。像高わずか2.4cm、銅製の円筒形厨子は内部が鍍金され天蓋が開閉できる造りになっています。

盛岡藩2代藩主南部利直に嫁した蒲生氏郷の養妹 於武の方ゆかりの資料と伝わっており、「鯰尾兜」(岩手県立博物館蔵)などとともに蒲生氏郷と南部家との関わりを示す資料として今に残されています。

参考・引用資料：盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』、2008。

『瀧源寺の枝垂桂(しだれかつら)・後編』

とんの昔ばなし三十九

それから二百年ほどたった天保年間(一八三〇〜一八四四)、枝垂桂はお寺の屋根を覆うほどの大木になっていました。お寺は、再び木を切ったところ三尺幅の板がたくさん取れたといひ普請に使われました。現在、瀧源寺にある鏡戸は、そのときの桂板を使用したものといわれています。幸い、大木を切った後も切り株から芽が出て育ち、この木が瀧源寺にある現在の枝垂桂です。この枝垂桂は、大正十三(一九二四)年に国指定天然記念物に登録されました。

枝垂桂の直系である妙泉寺の桂は、明治二三(一八九〇)年頃切ってしまい、その後は絶えてしまいました。瀧源寺から北一町(約一〇メートル)ほどの所に一基の岩石があり、慶守和尚の座禅した岩と伝えられています。

また、枝垂桂の伝説については、次のような説もあります。大ヶ生の殿様大ヶ生秀重の家来が砂子沢の山中で枝垂桂の小木を見つけ、これは珍しいと秀重に献上しました。秀重は、これを菩提寺である瀧源寺の開祖慶守和尚に与え、和尚は本堂裏に植えたといひます。

